

## 日本気象学会および関連学会行事予定

行 事 名	開 催 年 月 日	主 催 団 体 等	場 所	備 考
Tropical Micro-Meteorology and Air Pollution 国際研究集会	1988年2月15日 ～19日		インド, ニューデリー	Vol. 34, No. 4
日本気象学会 昭和63年度春季大会	昭和63年5月18日 ～20日	日本気象学会	柏市民文化会館・柏市勤労会館	Vol. 34, No. 12
第12回レーザセンシング シンポジウム	1988年5月27日 ～28日	レーザ・レーダ研究会 シンポジウム実行委員会	岡山市・桃花苑	Vol. 34, No. 10
Scale Modeling 国際シン ポジウム	1988年7月18日 ～22日		東京	Vol. 34, No. 6
国際シンポジウム第3回 流れのモデル精度向上化	昭和63年7月26日 ～28日	同組織委員会, 他	日本都市センター	
第27回 COSPAR 総会	1988年7月18日 ～29日	宇宙空間研究委員会 (COSPAR)	フィンランド, ヘルシン キおよびエスプー	
国際オゾン・シンポジウ ム	1988年8月8日 ～13日	IAMAP オゾン委員会	西ドイツ, ゲッチンゲン (ゲッチンゲン大学)	Vol. 34, No. 1
Postgraduate Summer School on Microwave Remote Sensing for Oceanographic and Ma- rine Weather-Forecast Models	1988年8月14日 ～9月3日	EARSeL	イギリス・スコットラン ド Dundee 大学	
国際放射シンポジウム	1988年8月18日 ～24日	IAMAP 放射委員会	フランス, リール	Vol. 34, No. 1
第6回エアロゾル 科学・技術研究討論会	昭和63年 8月23日～25日	エアロゾル研究協議会	大阪市立労働会館	
The 2nd International conference on Atmospher- ic sciences and Applica- tions to Air Quality	1988年10月3日 ～7日	同国際組織委員会 国内組織委員会	日本学術会議	Vol. 34, No. 9

編集後記：南極上空のオゾン量は、1987年の春(9月～11月)も大きく減少していたようです。成層圏オゾンが減少すると生命に有害な紫外線が地上に到達するため、その変動に関心がもたれます。

第29次南極地域観測隊は、南極観測船「しらせ」の航路上におけるオゾン観測を実施していますが、これを書いている12月現在、観測は順調に進んでいるとの事です。データの少ない南半球での南北分布の観測は貴重な資料となる事でしょう。

さて、1977年10月に始まった普及講座は10年を経過

し、約40編近くの解説が掲載されました。執筆された方々、御苦労様でした。私などは難解な記事が多い中で、入門書的な本連載を最も楽しみにしていましたので、第34巻をもって終了する事には、多少さびしい気持ちがあります。

しかし、1月号からは「研究機関めぐり」がスタートしました。また2月号からは、普及講座にかわる新企画「気象談話室」が連載される予定ですのでお楽しみに。(俊)